

# 琉球大学学術リポジトリ

教職科目「総合的な学習の時間」におけるリモート  
授業の実践報告  
—Webシステムを活用した取り組みと学生による評  
価—

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2022-05-31 キーワード (Ja): コロナ禍, Webシステム, リフレクション キーワード (En): 作成者: 金城, 満, 杉尾, 幸司 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24564/0002018005">https://doi.org/10.24564/0002018005</a>

## 【実践報告】

# 教職科目「総合的な学習の時間」におけるリモート授業の実践報告

—Webシステムを活用した取り組みと学生による評価—

金城 満<sup>1</sup>・杉尾 幸司<sup>1</sup>

Practice of Remote Classes in “Teaching Methods for Integrated Studies” on Teacher Training Course: Efforts Using Web Systems and Evaluation by Students

KINJO Mitsuru<sup>1</sup>, SUGIO Koji<sup>1</sup>

### 要 約

COVID-19蔓延下における教職科目「総合的な学習の時間」において実施した、さまざまなWebシステムを活用した授業内容について報告し、受講学生のリフレクション内容の分析を通じて、リモート授業の効果的な運営方法や課題について検証する。また、授業の成果と課題を通して、「教師としての力量」の育成や、ポストコロナ時代のデジタル化に対応した授業形態について考察する。

キーワード：コロナ禍、Webシステム、リフレクション

## 1. はじめに

2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延によって、世界規模の混乱が続いている。感染症予防のために生活様式の大規模な変更を余儀なくされた結果、さまざまな混乱と経済的な損失を世界各国に与え続けている。それは将来を担う若者の育成という使命を持つ教育現場においても同様であり、子どもたちや学生、そして教師たちも自己への感染と感染拡大に対する不安と戸惑いの日々を送っている（須田，2021）。ウイルスは細胞内でしか増殖できないため、人から人へと感染することでその存在を維持している。したがって、人々が交流する機会をなくしてしまえば、感染状況は収束するはずである。しかし、現代社会では、他者との交流を前提に社会生活が営まれているため、通常の生活を送るだけで感染・増殖のサイクルが維持されてしまう。そのため、人の移動・交流の頻度と感染症の拡大は表裏一体の関係にあり、「文明は感染症のゆりかご」といえる状態が生じている（山本，2011）。このようなウイルス感染症の特性から、日本におけるCOVID-19の感染対策として「三つの密」の回避と「新しい生活様式」が求められている。その「三つの密」回避の観点からは、閉鎖空間に多人数が同席し、相互に発言を行う授業形態は、避けるべき対象となっている。したがって、大学において、これまで主として行ってきた対面型の授業が、実施困難になるケースが増えており、コロナ禍における新しい教育のあり方が模索されている（須田，2021）。

このコロナ禍における教育への対応として、さまざまな試みが行われているが、代表的な取り組みの一つに、近年急速に発展してきたリモートワークシステムが挙げられる。大学教育においても、この未曾有の状況における強力な支援ツールとして、Webビデオ会議や e-learning等を活用した授業改善が積極的に試みられている（春田ら，2020；松下，2020；田中，2020など）。しかしながら、リモート授業を実施する場合には、授業形態と授業内容の親和性の問題や、受講学生の疲労への対応、適切な学習評価など、さまざまな課題が存在する。そのため、より効果的な授業内容とするためには、さまざまな実

<sup>1</sup> 琉球大学大学院教育学研究科教職実践講座

実践事例を蓄積し、実践内容についての検証を進めていく必要があるであろう。

そのため、本稿では、COVID-19 蔓延下における教職科目「総合的な学習の時間」において、さまざまなWebシステム（オリジナルWebサイト「Egg」・Zoom・Google Forms・Web Class）を活用した授業内容について報告し、履修学生のリフレクションシートの回答内容の分析を通じて、授業の成果と課題を明らかにするとともに、「教師としての力量」の育成や、ポストコロナ時代のデジタル化に対応した授業形態について考察する。

## 2. 授業実践の内容

### (1) 授業クラスの構成と実施期間

教職科目「総合的な学習の時間」（以下、「総合学習」と記述）は、教員免許状取得のための必修科目（1単位）で、1ターム8週間で完結するクォーター制で実施している。当該授業は、総合的な学習の時間について、設置の意義や教育課程上の位置づけを踏まえながら、実践事例の理解を通して実践力を養う内容となっている。そのため、授業時間の前半は理論や先行事例を紹介し、後半はそれをもとにグループディスカッションや発表を行う構成となっている。本稿では、授業実施期間が、2021年4月12日～6月7日のクラス「1Q」、2021年6月11日～8月6日のクラス「2Q」における授業実践について報告する。「1Q」（履修者56名）は、全ての授業（8回）が対面形式で実施できたが、「2Q」（履修者39名）は、沖縄県の新型コロナウイルス感染状況の悪化に伴う緊急事態宣言の発令によって、2回目以降の授業は全てリモート形式で実施した。

### (2) 実際に行った授業内容

#### ① 「1Q」（対面授業）

第1回：オリエンテーション（講義の概要と視点）

第2回：チームビルディングゲーム「マシュマロチャレンジ」・ワークショップ

第3回：「平和教育」沖縄における事例

第4回：「平和教育」グループ発表準備

第5回：グループ発表（5分程度を目安に発表，質問等を含め7分以内） ※発表内容を相互評価

第6回：「地域連携や家族から考える」生活指導・生徒指導

第7回：「地域連携，家庭連携」をテーマにグループ発表準備

第8回：グループ発表（5分程度を目安に発表，質問等を含め7分以内） ※発表内容を相互評価

#### ② 「2Q」（リモート授業）

第1回：オリエンテーション（講義の概要と視点）

第2回：緊急事態宣言により，アンケート調査

第3回：「平和教育」被害から「石の声」

第4回：「平和教育」加害から「鉄の記憶」

第5回：「地域連携や家族から考える」生活指導・生徒指導

第6回：「社会人基礎力」

第7回・第8回：履修生によるプレゼンテーション ※発表内容を相互評価

上記したように、第1回の授業終了後に、沖縄県の新型コロナウイルス感染状況が悪化したため、リモート授業の実施を検討する必要が生じた。そのため、第2回の授業で「希望する授業形態について」アンケート調査を行った。その結果、「全てリモート」56%、「全て対面」18%、「わからない」13%、「そ

の他」13%であった（図1）。この結果を受けて、2回目以降は全てリモート授業とした。

(3) 「2Q」クラスのICT利用環境および授業に対する要望

リモート授業の実施に先立って、履修生のICT利用環境についてのアンケート調査を行った。「スマートフォンまたはコンピュータを所持していますか。(コンピュータはタブレット含む)」の質問に対しては、全員が保持していると回答しており、「スマートフォンおよびコンピュータ両方を保持している」という回答が97.4%であった。一方、「自宅等でのWi-Fi環境は整っていますか」の質問に対しては「整っている」が61.5%、「整ってはいるが通信に不安がある」が38.5%、「整っていない」が0%であり、授業参加のためのWeb接続環境の安定が今後の課題と言える。

また、「この授業に何を求めますか。(複数回答)」という授業内容についての質問には、上位から順に、「教育に関する知識」84.2%、「教育に関する技術」63.2%、「生徒の動かし方」55.3%と回答している（図2）。このことから、履修者が、知識や技術と同時に、実践的な児童生徒との接し方について知りたいと考えている事が明らかになった。そのため、当該授業の内容は、教育現場をよりリアルに感じられる構成とした。

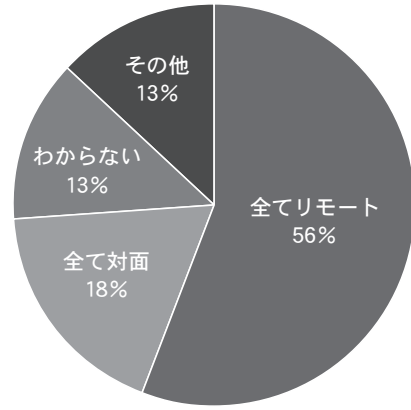


図1 授業形態に対する希望

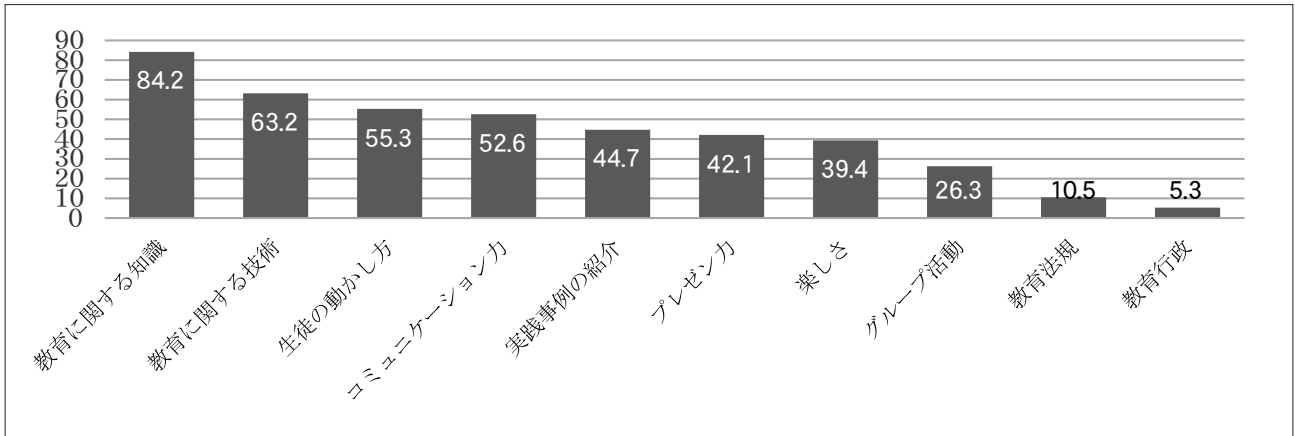


図2 この授業に何を求めますか。(複数回答)

(4) リモート授業での工夫

学校教育で実施される「総合的な学習の時間」の目標には、「課題の解決」、「情報を集め、整理・分析、表現」、「主体的・協働的」などがある。そのため、「1Q」第2回の授業では、協働的な学習場を体験できるチームビルディングゲーム「マシュマロチャレンジ」を実施した（図3）。これは、パスタ等を使って出来るだけ高いタワーを建て、マシュマロをタワーの上に乗せてその高さを競うゲームで、チームワークを高める事を目的としたワークショップである。見知らぬ者同士が、チームプレイを通して徐々に打ち解け合いながら、一つの目標を達成していく。履修生の振り返りには、「アイスブレイクの技術等は自分が担任になったときに使いたいと思った」、「話し合っって仲良くなるよりも、何かに取り組むことの方が打ち解けられるなど感じた」等の意見が見られた。また、「1Q」の第5回と第8回の授業では、グループ活動による協働学習を通して、「平和教育」や「地域連携、家庭連携」について思考を深め、その成果についてプレゼンテーションしてもらった。履修生の振り返りには、「個々の経験を全員

で共有し平和教育の課題を見つける事ができた。今回は特にグループの協調性の重要さを学んだ」、「相手の意見を聞くことで自分の考えを深めることに繋がること協力しあうことを改めて学んだ」等の意見が見られ、協働的な学習の実践として好意的に受け止められている。このような実践は、対面授業でこそ効果を発揮するように感じられるが、リモート授業においても同様の効果が得られるような工夫が必要となる。そのため、下記の①から⑤の対応を適時組み合わせるリモート授業を行った。

① 「総合学習」オリジナルWebサイト「Egg」を構築

リモート授業を効果的に行うために、授業で使用するためのオリジナルWebサイト「Egg」（以下、「Egg」と記述）を構築した。「Egg」は、親しみのある「卵」をアイコンに、Webサイト構築ソフトウェアである「BiNDup」を使用して作成した。サイト内には、授業テーマを掘り下げる関連性の高い情報やYouTubeへアップした教材動画資料等へのリンク（ハイパーリンク：hyperlink）が示してあり、学びを深める情報へ容易にアクセスできる。スマートフォンでも気軽にアクセスできるシンプルな機能性・操作性が特徴である（図4）とともに、自宅等でも利用可能なオンデマンド教材としての機能も持っているため、欠席者も後日、視聴が可能である。またGoogle Analytics等と連携させることで、「Egg」のアクセス状態（使用時間帯、継続時間等）について、日時を指定して確認する事が可能である。例として、「1Q」4月12日～6月7日の期間の利用状況示す（図5）。授業日には80回前後のアクセスがあるが、他の日、特に休日にはアクセス数が減少していることが確認できる。このように使用状況を視覚的に把握できるため、授業内容の形成的評価に活用できる。「Egg」を活用する場合の画面展開例のイメージを図6に示す。



図3 マシュマロチャレンジ



図4 「Egg」のトップ画面

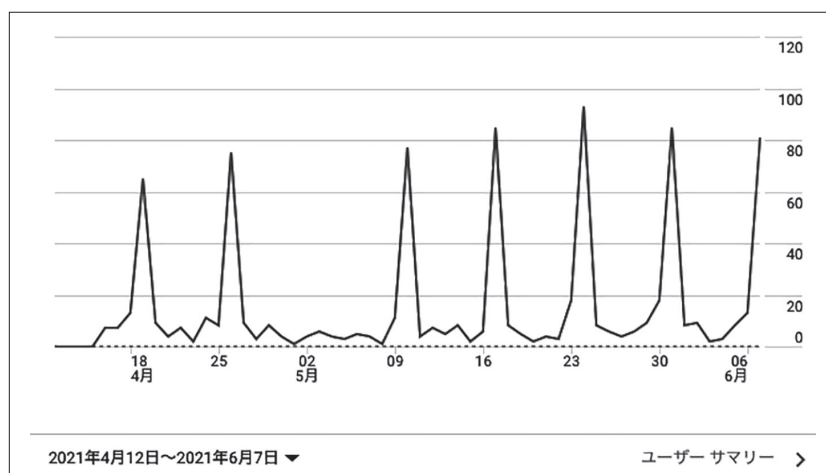


図5 Google Analyticsでのアクセス解析

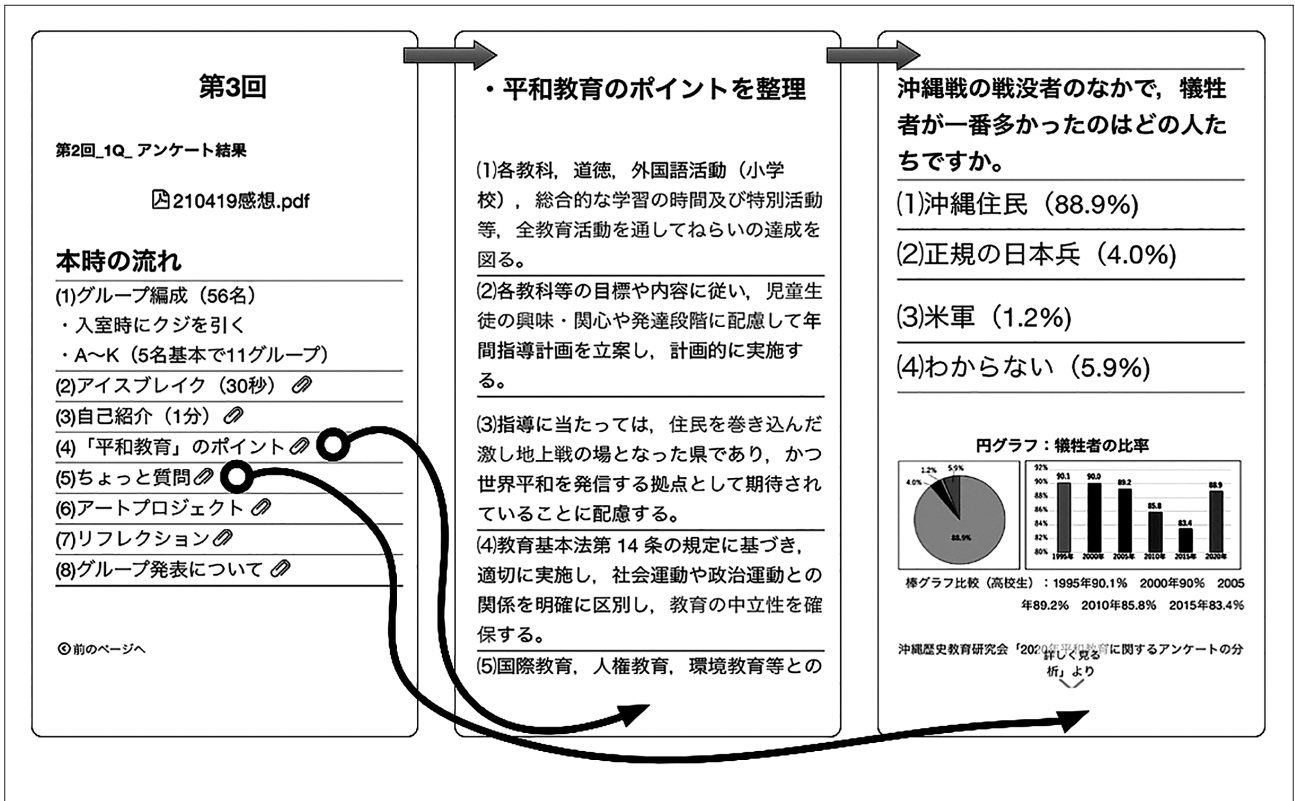


図6 「Egg」を活用する場合の画面展開例のイメージ：ページトップからリンクで移動し、各項目のポイントや、クイズ形式で理解を深める

② Zoomを使用したリモート授業

Zoomは、Zoomビデオコミュニケーションズが提供するクラウドコンピューティングを使用したWeb会議サービスである。Zoomは、さまざまなデバイス(PC、スマホ、タブレット)からアクセスが出来、自宅などからでも授業に参加できる。また、発言やチャット機能での反応も可能なので、双方向でのやりとりも容易である。資料は画面共有機能によって参加者に提示できるので、印刷物を事前に配布しておく必要は無い。この「総合学習」の授業では前半に教員が画面共有機能を使用して、伝えたい内容を講義し、質問タイムで理解の度合いを確認する。理解が不十分だと判断した場合は、さらに追加説明を工夫する。

③ Google Formsを使用したリフレクションの方法

授業終了時に、「Egg」に示したリンクからGoogle Formsのリフレクションシート(図7)にアクセスし出席確認を行う。Google Formsは、シンプルな操作で複数の質問形式から選択したり、質問を並べ替えたりして入力フォームが作成できる。また、回答をリアルタイムで確認でき分析することもできる。授業で使用したGoogle Formsの記述内容例を以下に示す。

【授業に関する質問】

**テーマ**：下記の例1)~7)を参考に事例紹介・行いたい授業・これまでに印象に残っている授業等を書いてください。

**字数**：400字程度

**提出期限**：授業日の翌日17:30までに回答、送信をお願いします(送信は必ず1回のみ)。

**共有方法**：集計は記名入りPDFで共有して、各自の記述から学び合います。

**例**：1) 沖縄における平和教育, 2) 被爆地における平和教育, 3) 学校全体の協働体制による平和教育, 4) 現在の沖縄を題材にした平和教育, 5) 継続的な平和教育を重視した取り組み, 6) 私が受けた平和教育, 7) 今後の平和教育, である。

**【Zoomでの発表の事前連絡】**

**連絡**：1) 特に、何番目に発表したい等の要望がなかったので、ExcelのRAND関数で乱数を生成する方法で順番を決めました。  
 2) 発表時間は3分で練習しててください。  
 3) 発表データはWord, Power Point, PDF(紙芝居形式等は変換), 送信提出できれば何でも可です。  
 4) Zoom発表なので画面共有方法等を練習し、使える様にしてください。  
 5) 各自の発表を履修生同士リフレクションシートで4段階の相互評価を行います。

**テーマ**：次の1)～4)の中から、自分が授業を行う前提で、校種・学年を示してプレゼンして下さい。  
 1) 第1回～第6回の授業を受けて触発された内容,  
 2) あなたが今まで受けた「総合学習」の発展形,  
 3) デジタルツールを活かした内容, 4) SDGsの具体的な取り組み方。

**基礎情報 (プレゼンで入れるもの)**：

- 1) 対象校種・学年を必ず示す,
- 2) テーマ (題材),
- 3) 目標 (何を育てたいかの狙い),
- 4) 評価基準 (どのように評価するか),
- 5) 指導計画 (50分授業で設定する)

図6 Google Formsでの入力

④ 学内のWeb Classとの連携

Web Classは、日本データパシフィック株式会社が提供する日本の大学向けに開発されたLMS(学習管理システム)で、インターネットを利用して、資料の提示、テストの実行、レポートの提出や成績データの集計が行えるシステムである。当該授業では、履修生への一斉メールと、最終のプレゼンテーションデータの提出と評価に活用した。

3. 授業実践の評価

(1) 授業実践のアンケート調査結果

「2Q」のリモート授業を経験した履修生(37名)に対して、最終の第8回にアンケート調査を実施した。質問項目「①シラバスでの目的や趣旨, ②教材の適切さ, ③理解を促す工夫, ④コミュニケーション, ⑤リモートと対面との比較, ⑥自分なりの問いを立てられたか」について、5件法で実施した。その結果を表1に示す。また、その他に自由記述形式で、以下の質問項目への回答を求め、表2～4に示した。「⑦今回、ほぼリモート授業でしたが良い点を書いてください(表2)」、「⑧今回、ほぼリモート授業でしたが修正を希望する点を書いてください(表3)」、「⑨最後に本授業における感想を記述してください(表4)」。

表1 「2Q」のリモート授業を経験した履修生の反応

(n=37)

質問項目	1	2	3	4	5
① シラバスに記載された目的や趣旨が生かされた授業でしたか。	0(0%)	0(0%)	2(5.4%)	15(40.5%)	20(54.1%)
② 使用した教材は適切でしたか。	0(0%)	0(0%)	4(10.8%)	12(32.4%)	21(56.8%)
③ 理解を促すための方法上の工夫がよくされていましたか。	0(0%)	1(2.7%)	2(5.4%)	14(37.8%)	20(54.1%)
④ リモート授業では教員とのコミュニケーションは取りやすかったですか	0(0%)	1(2.7%)	9(24.3%)	17(45.9%)	10(27.0%)
⑤ リモート授業での学習効果は対面授業と比較してどうでしたか(同等評価なら3)。	1(2.7%)	8(21.6%)	18(48.6%)	6(16.2%)	4(10.8%)
⑥ 授業の目標、内容の理解のため、授業中は深く考え、自分なりの問いを立てることができましたか。	0(0%)	0(0%)	2(5.4%)	20(54.1%)	15(40.5%)

表2 ⑦今回、ほぼリモート授業でしたが良い点を書いてください。(原文ママ)

1)感染対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>対面だった場合、医学部と教育学部の教室が離れているので移動が大変なのですが、リモートだったので前の授業などが長引いても遅刻せずに2限の授業に参加することができました。この授業は他学部の人とも関わるし、コロナの流行もこの授業が始まった時よりも感染が拡大しているし、20代の感染が拡大しているので、感染対策としてはいいと思いました。</li> </ul>
2)時間やコストの節約	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間部の履修生として、午前中に大学という場所に行かなくてすむ分、授業には参加しやすかったです。</li> <li>通学時間がなくなったので課題に時間をあてることができました。対面の授業だと1回しか動画などを見せてもらえないけど、リモート授業だったので資料などを送ってもらうことができ何回も見ることができてよかったです。</li> </ul>
3)コミュニケーションの取り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生のコミュニケーションの取り方が良かったです。飽きない、楽しい授業でした。対面で受けたかったです。</li> <li>オンライン化で資料配布やレポート提出のみでの授業が多いけど、毎回Zoomで、先生の声を通しての講義があったこと。</li> <li>先生が高校教師の時に実際に扱ってきたテーマや、授業の話聞くことができより身近なテーマであると考えられました。</li> </ul>
4)ペーパーレスとリフレクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の提出が紙媒体でなく、ネットでの提出であること。そして、長い時間をかけて考えて自分の考えをまとめられること。資料をもとに授業が進んでいくので、整理しやすかったです。</li> <li>リフレクションシートなど皆さんのの見る事ができた。授業で使用した動画を見返す事ができた。</li> <li>映像等の視覚的情報が簡単に見ることができた。</li> <li>全員のリフレクションシートを見ることができ点が、他の観点などが学べてとてもよかった。</li> <li>今までのリモート授業は思い通りに進まないことが多く、イライラすることが多かったのですがこの授業はスムーズでとても受けやすかったです。リフレクションシートも書きやすかったと思います。</li> <li>授業の後のリフレクションが、対面だとその場で出さないといけないので、授業を受けたリフレクションのはずが、提出しなければ欠席扱いになるため、リフレクションを書くために授業を受けたような感じになるところがあるが、リモートだと、しっかり授業内容を振り返って書くことができる。</li> </ul>
5)その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>短い時間でまとまった授業だったこと。</li> </ul>



表3 ⑧今回、ほぼリモート授業でしたが修正を希望する点を書いてください。(原文ママ)

1) Zoom設定方法や交流の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Zoom会議を回ごとに別URLで開くのではなく、定例のミーティングにして欲しい。</li> <li>・ブレイクアウトルームを設けることなどを通して、他の生徒との交流があるより良いと感じました。</li> <li>・生徒同士の交流の場が欲しかったです。</li> <li>・グループに分かれてのディスカッションが各授業に1回くらいあっても良かったかもしれません。</li> </ul>
2) Zoom以外での授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で使った、スライドをWeb Classなどで配布してほしいです。</li> <li>・修正する点としては、毎回の授業の資料をWeb Class等であげてもらえれば復習理解をしやすかったかなと思いました。</li> </ul>
3) 資料配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料は閲覧できるようにしてほしいです。感想を書く際に、授業を聞いただけでは忘れてしまうこともあるので、できればスライドを載せるなり、出席者にだけ使用したスライドを送るなりして頂けると、よりよい感想(復習)を書くことができるのではないかと思います。</li> <li>・パワーポイントの資料を、時間限定でいいので閲覧・保存できるようにしてほしい。</li> <li>・授業の中での動画を配分資料にのせたら、もっといいなあ。</li> </ul>

表4 ⑨最後に本授業における感想を記述してください。(原文ママ)

1) 授業立案者の立場に変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修生の時は軽く過ごしていた「総合の時間」でしたが、この時間を生かせば、様々なことに対する「学びが深まる」ということに気がきました。国語や数学、理科などの普通の科目では学べない、大切なことを深めていきたいと思いました。</li> <li>・総合的な学習の時間の計画を立てる側から考えることができよかったです。</li> <li>・教科の枠を超えた現在話題の「生きる力」の育成に繋がるのではないかと考えるきっかけとなった。</li> <li>・採用試験合格に向け頑張ります。ありがとうございました。</li> <li>・「総合学習」がうまく使われていない、という話を以前に聞いたことがあったけれど、この授業を通して様々な実践例を見ることができたので、授業のイメージがわきました。</li> </ul>
2) 授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和実践教育で「石の声」を見て、芸術に関する価値観が変わった。それまでよく分からない分野だったものが、よく分からないまま何故か心が動く分野に変化した。</li> <li>・今まであまり意識が向けられていなかった「総合学習」というものを深く考えるととてもいい機会でした。授業では教えることが不十分になりがちな面をこの授業ではこどもたちに提供できるのだと感じ、沖縄の平和教育、SDGs、社会人基礎力など、今後教師になった際にはそういったトピックを総合学習を利用してこどもたちと一緒に考えていけるようにしていきたいと思いました。</li> <li>・自分の受けた総合の授業についてなかなか思い出せなかったのが、イメージができない部分もあったりしたが、特に平和教育と芸術を組み合わせた取り組みは、一方的な知識の教授よりも子どもたちの心を揺さぶることができると思ったので、私も養護教諭として授業をする機会があれば、間接的なようで実は本質に自分から迫っていると子どもが気づくことのできる授業ができるようになりたいと思った。</li> </ul>
3) 教員自身の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学習について、先生の実験の体験をもとに学ぶことができました。総合の時間は以前と比べて重視されていて、その内容は学校によっても異なるので、充実した総合学習の授業を行うために、先生の実験や他の生徒が考えた総合の学習の内容について知ることができたので、とても参考になりました。</li> <li>・この授業で印象に残っている授業は、平和学習の「石の声」と「鉄の暴風」でした。マンネリ化している平和学習を少しの工夫とちょっとしたアイデアで、有意義な学習にできるということが学べました。沖縄で教員をやる以上は、毎年平和学習を行わなければいけないので、私も生徒が興味関心を持ってくれそうな学習方法を考えて取り入れてみたいと思いました。</li> <li>・教員自身が教師生活を通して得た経験が授業資料として用いられていたのととてもリアルな情報として受け取れることができました。</li> </ul>
4) 共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習について、これまで触れることのなかったようなさまざまな視点から取り組まれた事例から学ぶことができ、自分自身でも具体的に総合的な学習の授業について考えることができました。また、他の人の考えを聞く機会もあり、総合的な学習に対する視野が大きく広がる授業でした。</li> <li>・今回の授業は新型コロナウイルスの状況で対面での授業が厳しい中でわざわざズームで皆さんと情報を共有できるような場を設けてくださってありがとうございました。最後の発表では皆さんの授業計画を聞いて参考になるものばかりで本当に良い授業を受けられたのかなと思います。</li> <li>・講義内で紹介されていた授業もそうですが、最後のこの2回でも様々な授業案が見れて自分の引き出しが増えたように思います。ありがとうございました。</li> </ul>





とてもリアルな情報として受け取れる」との記述があった。リアルな情報とは、実感のない物、事、言動、に迷わされないで、自らの日常を足場に考えるということで、「総合学習」はそのようなリアルと繋がっている感覚が大切である。

4) 共有については、「他の人の考えを聞く機会もあり、総合的な学習に対する視野が大きく広がる授業でした」、これはお互いが考えたこと、感じたこと、を共有したいとの表現と考えられ、「視野が大きく広がる授業」の構築につながるだろう。そのため送信されてきたリフレクションシートを、筆者がポイント等の部分を赤字化して「Egg」でデータを共有した。しかし、プライバシーにも考慮する必要があるので、公表が前提の場合は事前にその旨を伝えておいた。また、今回のリモート授業はZoom画面に顔の見えない状態だったので、ある種の不安や違和感は、最後まで消えなかった。リモート授業での「顔出し」の問題はプライバシーや画像の別目的利用も考えられるので、今後のルール整備が急がれる。

5) その他については、「オンライン授業でなかなかグループで意見交換が出来なかった」に代表されるように、履修生は教員からだけでなくお互いで学び合いたい欲求が大きい。「総合学習」においても「知識伝達型」から「実体験型」を主体にした実践的指導力の育成が求められている。

#### 4. おわりに

コロナ禍により、リアルな対面授業の代替としてリモート授業が一気に広がった印象がある。しかし、リモート授業には、体験型の授業をサポートする面もある。例えば、予習段階で授業内容を理解してもらって「反転授業」を取り入れる事によって、授業に必要な知識等を事前に学習することが可能になり、教室ではグループディスカッションと発表により多くの時間を割り当てることが出来る。

また、従来の対面授業を単純にリモート授業に変換するだけでは、不自然な授業展開にならざるを得ない。リアルな対面授業には、場の空気を介した人間同士の共鳴感があり、演劇やコンサートのようなライブ感がある。一方、リモート授業には、教室のライブ感はないので、それを補う「dボタン」のような機能が必要だろう。「dボタン」とは、テレビ技術の発達によって、個人のニーズに合わせた参加や、アンケートに答える時に利用するリモコンについての参加型のボタンである。リモート授業における「dボタン」とは、学習者の理解度に応じて、様々な技術や学習形態が選択でき、教育効果を高めるツールを想定している。学習者一律のリモート授業では無く、個々の学習者に応じた「dボタン」に相当する工夫について、どのように実装していくかが、今後の重要な研究テーマとなるだろう。様々な授業形態の組合せを工夫する事によって、ポストコロナ時代のデジタル化に対応した授業の可能性を追求していく努力が求められている。

#### [文献]

- 春田淳志・川上ちひろ・早川佳穂, 2020, 「医学教育修士課程における多職種連携教育オンラインプログラムの実践報告—オンラインに適したインタラクションの工夫—」『医学教育』51(3): 344-347.
- 松下幸司, 2020, 「大学の遠隔講義におけるアクティブラーニング型授業の試み—グループ・コミュニケーション・ルームと情報共有ツールを併用して—」『香川大学教育実践総合研究』41: 89-98.
- 須田和也, 2021, 「新型コロナウイルス感染症蔓延下における大学体育実技の運営(1)—授業運営方針決定の経緯と学生と教員のチャット分析から—」『共栄大学教育学部研究紀要』6: 27-42.
- 田中由美子, 2020, 「Zoom, LINE, Web Classを併用した遠隔授業の実践」『九州女子大学紀要』57(1): 105-107.
- 山本太郎, 2011, 『感染症と文明—共生への道』岩波書店.